

# New Year's Day Service



**January 1st, 2026**  
**11:00AM ~ (English)**  
**1:00PM ~ (Japanese)**

**You are free to enter  
the temple until 3:00PM**

**15時までご自由に  
参拝していただけます**

**初詣  
元旦法要**

謹賀新年



Sheppard West駅を降りてすぐ！  
**TORONTO BUDDHIST CHURCH**  
*A Jodo Shinshu Temple*  
トロント本願寺（仏教会）



[tbc@tbc.on.ca](mailto:tbc@tbc.on.ca)



416-534-4302（土休）

日本語での問い合わせは  
駐在僧侶 橋本・杉浦まで





# New Year's Eve Ringing Bell

トロント本願寺

## 除夜の鐘



December 31, 2025  
11:30 PM ~

どなた様も1度ずつ鐘について  
いただきます

Everyone rings the bell  
one time each.



Sheppard West駅を降りてすぐ！  
TORONTO BUDDHIST CHURCH  
*A Jodo Shinshu Temple*  
トロント本願寺（仏教会）



tbc@tbc.on.ca



416-534-4302（土休）

日本語での問い合わせは  
駐在僧侶 橋本・杉浦まで



阿弥陀さまの本願という大きな船に、すでに行き先を託している私たちであります。この確かに照らされながら生きるとき、迷いのただ中にあっても、そつと心が支えられていきます。親鸞聖人の和讃をとおして、阿弥陀さまのおはたらきにあらためて気づかせていただくご縁となれば幸いです。 合掌

トロント本願寺 駐在開教使補 杉浦 輝

## 祥月法要のお知らせ

祥月法要とは、祥月命日（故人が往生された月のご命日）をご縁として仏法に遇い、阿弥陀さまの仏徳を讃嘆し、報謝の思いでお勤めする法要です。

日時… 十二月七日（日）

一月 四日（日）

（日本語…午前十時四十五分から）

（英語…午前十一時から）

※英語法要のみオンライン配信

オンラインでの参拝を希望される方は、その旨を寺院事務所までお知らせください。

Zoom link を送らせていただきます。

どうぞ故人が祥月でない方もご参拝下さい。

※四月より日本語の時間を変更しました。

法要後には地下のソーシャルホールにてメンバー同士の交流を楽しんでいただければと思います。



## 成道会法要のお知らせ

今年の成道会法要は、十二月二十一日（日）にトロント本願寺にてお勤めいたします。



成道会は、お釈迦さまが真実に目覚められた十二月八日をご縁として念仏生活を喜ばせていただく法要です。

浄土真宗では、この真

実とは阿弥陀如来の智慧と慈悲のはたらきであり、お釈迦さまはその教えを私たちに説き示してくださった導き手です。迷いのままの私に阿弥陀如来のはたらきが届いていることを味わい、南無阿弥陀仏が私たちの口に出る喜びを味合わせさせていただきます。

## ボランティアの皆様へ

寺院内外に問わず、トロント本願寺の護持発展に対して、ご尽力くださるすべての方々に感謝を申し上げます。 合掌



モミジでの定例法要の様子

（第2木曜日 10時半～）

※時間変更になっています

## お餅つきのお知らせ

日時…十二月三十日（火）午前八時～  
お餅は 事前注文制（締め切り…十二月二十二日）で、お餅の受け取りは午後二時～六時です。

ボランティアも登録制で募集しています。英語版寺報に注文書・登録書を添付していただきますのでご利用ください。みんなで協力して、楽しいイベントにしましょう！

## 枕経のお知らせ



ご家族の枕経を検討されている場合は、当寺院の寺務所へご連絡いただくようお願いしております。

ご希望の時間を調整し、ご一緒に臨終の仏徳讃嘆のお勤め、もしくは、故人を偲びながら、ご家族の皆さんとお勤めをさせていただきまします。当寺院に事前にご連絡いただくことにより、ご家族の質問への対応や必要な情報を提供することが可能となります。

枕経についての連絡、質問については、留守の場合はメッセージを残していただき、担当者が折り返し対応させていただきます。

トロント本願寺 理事会



# 佛心

二〇二五年十二月号

浄土真宗 本願寺派

トロント本願寺

今回は、わたしが  
非常に心に残ってい  
る御和讃をご紹介します。

## お浄土行きの船、ただいま予約済み

だんだんと気温が低くなり、まもなく冬本番に差しかかるうとして  
います。



多くの方からは、  
「トロントの冬は本当  
に寒いぞ」と言われま

す。私はまだ、トロントの冬を体験したことは  
ありませんが、「一体どれくらい寒いのだろう  
か」と楽しみと不安の気持ちがあります。ダウ  
ンジャケットとスノーブーツはもう用意したの  
で、あとは待ち構えるだけです。

さて、今月は、何を話そうかと思いいろんな仏  
教書を読んでみました。その中で、やはり目に  
留まったのは、親鸞聖人がお書きになった「和  
讃」であります。日本で法話をさせていたたく  
ときは、必ず「御讃題」という、法話のタイト  
ルのようなものを決めます。多くの僧侶は、こ  
の「和讃」から選ばれることが多いです。

「和讃」は、親鸞聖人が阿弥陀さまの御恩に  
対してのお心を歌として表されたものです。特  
に有名な『三帖和讃』は全部で二百九十三首ほ  
どの和讃をお書きになられたそうです。

生死の苦海ほとりなし

ひさしくしずめるわれわをば

弥陀弘誓のふねのみぞ

のせてかならずわたしける

苦しみに満ちた迷いの海はどこまでも果てし  
なく続いている。その海に長い間沈んでいるわ  
たしたちを、阿弥陀仏の本願の船だけが、必ず  
乗せて浄土に渡してくださる。たとえ現在  
は、思い通りの生活であったとしても、愛する  
人との別れや、憎しみの相手にも出会い、また  
いずれは命を終えていくのが私たちの命であり  
ます。思い通りにならない世界だからこそ、親  
鸞聖人は、「苦しみの海」と表されたのでしょ  
う。そして、私たちを海に沈む「石ころ」と譬  
えられています。石はどれだけでもいても水の  
上に浮くことは出来ません。どれだけ頑張つて  
も石は石なのです。

ではこの石が、海上に浮くにはどうしたらいい  
でしょうか。その一つとして船に乗せてもら  
うことです。石が船に乗ることができれば、石  
は石のまま海に浮かぶことができるのです。自  
分の力では海上に浮くことが出来なかった私  
が、船に乗せられて私のまま海に浮くことがで

きるのです。

船（阿弥陀様）が石（私）をそのまま救  
い上げてくださるのです。ですから、私自  
身が特別に変化しなければいけないという  
のではありません。「修行して善人になる  
よう努力しなさい」という仏さまではあり  
ません。私のまま、弥陀の大神船によって導  
かれ、お浄土に生まれさせていただく教え  
が浄土真宗のみ教えであります。

この御和讃を味わうとき、私は、すでに  
お浄土へ向かう「船の予約」をいただい  
ているように感じます。私がこの命を終  
わった後には、どこへ行くのか迷うのでは  
なく、阿弥陀さまのはたらきによって、行  
き先はもう「お浄土」と決まっている。  
まるで、お浄土行きのクルーズ船旅行が  
待っているかのように感じます。

浄土真宗では、生まれ変わりを考えませ  
んが、あえて言うなら、次に生まれる場所  
は、阿弥陀さまのおはたらきによって向か  
う、お浄土なのです。迷うことなく、必ず  
そこへ生まれさせていただく。この確かさ  
を、親鸞聖人はこの御和讃で示してくだ  
さっているように感じます。そのように思  
うと、「この先どうなるのだろう」、とい  
う不安がすこし軽くなるように感じます。  
阿弥陀さまのおはたらきに、安心をいた  
けるのです。

二頁に続く